

## 1-① 指導体制の充実

### これからの『外国語活動・外国語科』の授業力・英語力向上に向けて

上越市立下黒川小学校 岩下 伸子

#### 1 研究の視点に関する実態

平成 32 年度から全面実施となる『外国語活動・外国語科』。2 年間の移行期間で「プラス 35 時間の授業時数を生み出す」「ねらいや学習内容等を理解する」「デジタル教材や ICT 等の活用を進める」、何よりも「教師の授業力・英語力を向上させる」等々、課題は山積している。英語科の免許を所有していない小学校教員にとって外国語科の指導に対する不安感は大い。校長は、その不安感を払拭させ、教員が自信をもって授業を進めていくことができるように指導体制を充実させていく必要がある。

そんな折、平成 29 年度から当校を含む柿崎中学校区は、上越市教育委員会より『外国語活動・外国語科を中核とした小中一貫教育の推進』について研究指定を受けた。これを好機と捉え、小小・小中が連携し、これからの『外国語活動・外国語科』の授業力・英語力向上に向けた取組を推進してきた。

#### 2 改善のための具体的な方策と取組内容

##### (1) 中学校区における組織づくり

中学校区校長会では、中学校区連携組織に外国語活動推進委員会(以降、推進委員会)をつくり、小中一貫教育推進会議を設置。当校が推進委員会を担当、委員は各校外国語活動主任と中学校英語科主任。

##### (2) 小小連携・小中連携による《〜1・2・3》を合言葉にした授業力・英語力向上の取組

###### ①《子どもと一緒に1・2・3》

担任は、英語教育推進リーダー(以降、推進リーダー)や ALT との TT 授業、英語科教員の出前授業などに積極的に関わり、児童と共に学ぶ(平成 29 年度より出前授業を実施、今年度からは ALT が毎週来校)。

・Classroom English や Small Talk を取り入れ、更にデジタル教材、フォニックス体操、外国語絵本等の活用を図り、「聞かせる」授業を大切にする。担任が進んで英語で話し、英語に慣れ親しむ。

・「E タイム(15 分間)」や「チャレンジタイム」、ABC 週間で、全教員が児童と英語でやり取りをする。

###### ②《時間を設けて1・2・3》

・推進リーダーや専科教員の示範授業を参観し、ミニ研修を実施。中学校区で公開授業を参観し合う。

・夏季休業中に中学校区『外国語活動・外国語科』合同研修会を実施。小学校は全教員が参加する。

・先進校視察を行い、これからの『外国語活動・外国語科』の授業の在り方等について研修を深める。

##### (3) 当校における研修方針、役割分担と取組

平成 28 年度までは「UD 化を取り入れた授業づくり」について研修を進めてきた。昨年度はそれに外国語活動を加え 2 本立てで進めたが、今年度は外国語活動 1 本に絞り、研修を進めている。3・4 年生は 35 時間、5・6 年生は 70 時間の外国語活動を行う(1・2 年生は 8 時間)。研究主任は外国語活動全般の推進、研究副主任は学力向上・授業づくりの推進、教務主任は 35 時間の時数確保等の推進、ICT 担当や英語環境担当は各々 ICT や掲示板等の活用推進を担当。役割を分担し、全校体制で取り組む。

#### 3 取組の成果と残された課題

##### (1) 成果

① 小小連携・小中連携による《子どもと一緒に1・2・3》《時間を設けて1・2・3》によって担任が自信をもって授業ができるようになってきた。Classroom English の積極的な活用が図られている。

② 移行期間に、35 時間・70 時間の時数を確保して授業を行うことで、丁寧な授業が可能となった。

③ 外国語活動における教材整備や ICT 整備、環境整備等と、それらの活用が進んできた。

④ 『外国語活動・外国語科』の時間を楽しみにする児童が増えた(1 学期全校児童肯定的評価 91.6%)。

⑤ 全校体制で取り組むことにより、「チーム学校」としての協働性・同僚性が進んだ。

##### (2) 課題

① 移行期間中のため、新教材活用授業を進める際、教材研究や教材準備に十分な時間確保が必要(「Let's Try!1,2」「We Can!1,2」「Hi, friends!1,2」など、前学年と本学年での教材研究が必要)。資料の蓄積。

② 充実した授業を展開させるためには授業者の更なる授業力・英語力の向上が必要。ミニ研修会の工夫。

③ 教材・外国語絵本・ICT 等の整備等に関わる予算確保や ALT 等の人材確保。

④ 小中連携・小中一貫教育推進に関わる打合せ、研修、授業支援等のための時間確保。